

魚類の生活色に就いて(第9)

黒田長禮

On the life colors of some fishes—IX

Nagamichi KURODA

(132) ヒメハナダイ *Tosana niwae* SMITH & POPE. 1957年8月7日志下にて新鮮1点(全長138 mm)を入手し、次に色を記載する。体の背方は暗桃色、体側中央以下は色が淡くなり、腹方は殆ど白い。頭頂が最も色が濃い。各鱗には暗紫色の小斑を有するが著しく顕著ではない。体側中央の1縦列にはこの暗紫色よりなる点列が他よりも明にあり、多少帯紫色帯を示す傾向がある。眼の後方に鰓蓋の殆ど末端に達する不明瞭な汚セピア色の1縦帯とその直下に淡紫色の1縦帯がある。鰓蓋は大部分白く、少しく淡桃色と黄色とを帯び、喉にも同様の色を帯びる。上下顎端には赤唇状を示して顕著である。D.は帯桃橙色で、それに多少濃き桃色の縦帯があり、軟条部になると、それは不明瞭となり、各条には4~8個の暗点がある。P.は淡桃色。V.は殆ど無色。A.とC.とは少々濃き赤橙色を呈する。D.では第3棘が少し長く(10 mm位)、V.の第2軟条は延長し(33 mm、糸状部11 mm)、A.の中央の1軟条も延長し、糸状部は12.5 mmで尾柄の後端に達する。C.は蟹の鋏状で、上葉は短かく糸部8 mm [これには個体変化が多いと思う]、下葉は長く糸部11 mm位ある。P.は右第2~5軟条分枝し、左2~6も分枝する。[原記載には分枝なしとあるのは確に誤り]。

ベンテンハナダイ (*Mustelichthys gracilis* (Franz, 1910) は片山正夫博士の説通り、ヒメハナダイ *Tosana niwae* S. & P., 1906 のシノニムと認められるが、色彩の差は今回の如き大型のもので明に異なるので、私は

これは多分ベンテンハナダイが♂、ヒメハナダイが♀であろうと考える。私が1957年8月9日にヒメハナダイと思うもの5点を片山氏に送呈したが、それらは全部♀なりとの報に接した。D.の棘と軟条との間にヒメハナダイでは欠列はない。C.の上葉の長いのが普通例であるが、時に下葉の方が長いものもあり、又上下同長の例もある。P.の上部軟条の分枝は片山氏通信ではルーペで見て第3~7等が分枝すると報ぜられる。私の調べた処では2~6, 2~5, 2~4, 2~3, 3~4, 3~5, 3~6, であり、分枝を認め得ないものは3点(全長76, 103, 105 mm)で、107~143 mmのものは分枝の鰭を持っている。又右と左の軟条で異なるものもある。結局小形幼

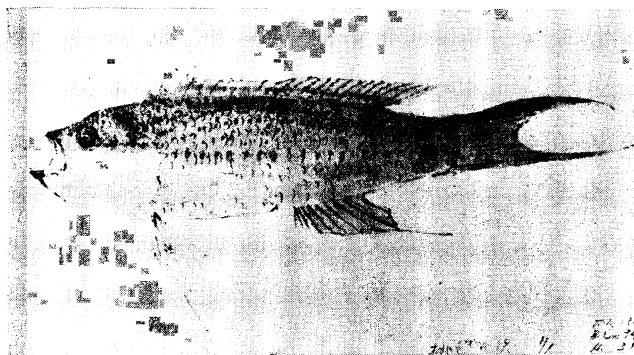


Fig. 1. ヒメハナダイ 雌成魚
志下 全長138 mm. (縮小) (著者略写)

魚は分枝の数が少いらしい傾向を示すように思う(以上 9 点の調査による)。

茲に片山氏からの御教示を深謝する。他のハナダイ類についても新説を有されるが、私は今茲では触れる事を差控える。

(133) **クロメジナ** *Girella melanichthys* (RICHARDSON). 1950 年 10 月 22 日伊豆網代で釣獲の 1 幼魚(全長 101 mm)を山内豊功君から贈られた。体色は紫黒色で、各鱗の基底に暗点がなく、P. の基部に明な 1 黒帯があり、鰓蓋後縁が多少黒い。

又 1955 年 8 月 19 日三津水族館でクロメジナ大 2 尾を観察した。体色は記載や水出しの新魚は黒いが、水中游泳のものはメジナと同水槽にあって、この方が却って著しく色が淡く(灰色を呈し)、ただ鰓蓋後縁と P. 基部の黒色斑は鮮明に存していた。

(134) **イスズミ**(イスズミ・ゴクラクメジナ) *Kyphosus lembus* (C. & V.). 1950 年 8 月 8 日志下海岸で新鮮の中幼魚 1 点(全長 116 mm)を入手した。これは幼魚の為か側線は明瞭であるが、側線下には 10 条あるのみ。背及び頭は真黒色、側線上方迄は黒味が強く、それ以下は各鱗が灰色を呈し、それに 10 条の縦線があり、成魚では黄色となるが、これは umber 色を呈する。D, A. は黒色、C. は基部と中部が黒く、葉部は灰色である。P. は基部黒色、他部は灰色。V. の基半は灰色、縁と先半とは黒い。顎・喉及び胸部は帯白灰色。眼下部に不判明な 2 暗色縦帯[液漬後明となるように思える]。虹彩は帯黄金褐色。

(135) **マダイ** *Chrysophrys major* T. & S. 1946 年 11 月 17 日志下附近で漁獲の中幼魚(全長 300 mm) 1 点の色彩を精査した。虹彩は褐色に橙黄色斑があり、内細輪は淡黄色。此例では岡田・内田・松原 3 氏 1938, pl. 82, fig. 3 の如く桃赤色が強くなく余程淡色であって成魚の色に等しい。頭から背面は暗紅色であるが、体側は赤味が著しく少く色淡く、黄金色光が強い。喉・鰓蓋下方から腹側は A. の後方基板上迄白色で先ずチャイナ・ホワイト(光沢なし)であり、喉前方の峽部には灰紅色の 1 縦斑がある。親魚同様額から眼の後上方に 1 蒼蒼色の鉢巻状(但し左右は額で離れるが)の白斑があり、後方は蒼色に富み、一体に此斑は美麗なる光輝を放っている。又眼下にも同色の 1 小斑がある。体側には背から側線下 A. 迄の間に蒼光小円点を散布し、不規則な略々 6~7 縦列をなす。D. の棘部膜は淡灰橙色で、上縁は少し黒く、各膜の中央に縦楕円形の透明斑があり、第 6 棘膜に 2 個の体側と同一の小蒼色円点がある。D. 軟条部は中央に淡灰紅色の 1 縦細帯があり、その上下に円形又は縦楕円形の透明斑が並び、軟条部先端は橙赤色に富む。軟条部前部の基部にも小蒼円点 2 個がある。P. は淡灰黄色で桃色は殆どない。V. は親魚同様の淡灰蒼色で軟条に僅に暗紅色軸斑を有し、幼魚の如く全体桃色でない。A. は暗灰紅色で、鰓前方の下縁は少しく黒く、而して A. の基部は白色であり、稍々 1 縦帯状をなしている。C. は基半暗灰赤色、先半は橙赤色で、又部の外縁に細黒縁を有する。P. の基部少し上方に 1 暗灰黄斑がある。鰓蓋前骨後縁と同後骨後縁下方とは少し桃色が強いが、チダイ程ではない。

(136) **タマガシラ** *Scolopsis inermis* (T. & S.): 1946 年 1 月 25 日日本種の稚魚 7 点(全長 25~37.5 mm)を志下手繰網中より入手した。背面は灰紅色で、体側殊に側線下には銀光がある。鰓蓋から腹にかけ銀白色で、後方の境は明瞭。体側に 5 淡褐横帯があり不判明。後頭は桃色、後頭から D. 基底に暗黒色斑 4 個位ある。これと同色のものが尾柄上縁を走る。D. 棘は先端バラ色を有し、外は淡灰色。P. 及び V. は殆ど透明。A. も殆ど透明で、少し暗色々素がある。C. には暗色々素を少し有し、それに淡バラ色を帯びる。虹彩は銀色が普通で、ただ 1 例では銀色の上下に灰紅色斑がある。

又 1946 年 11 月 10 日千本沖手繰網で 2 稚魚(全長 37, 62 mm)を獲た。全長 62 mm の

例では虹彩銀白色に赤斑があり、上方は赤褐色である。体の横帯は成魚と同形態であるが、色彩が暗色である。背方から体側(頭側共)は淡紅色で、著しく色が淡く、巾広の横帯は暗灰紅色で、体の中央から下方に至ると次第に消失する。D. は棘部の軸が擬白色、1~6 棘迄には各膜に暗灰色の横斑があり、第 6~10 迄の間の膜は擬黒色であるため 1 大黒斑となり、それが体側の広横帯に移行する。D. 軟条部は淡色で、その先縁は淡紅赤色を

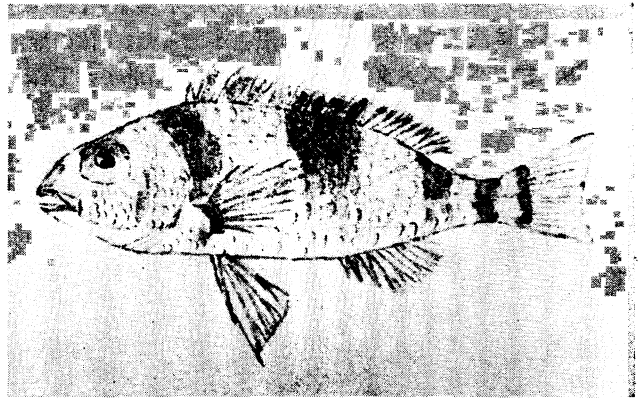


Fig. 2. タマガラン 幼
千本沖手繰 全長 62 mm.
(著者原図)

有する。この最後軟条基部は特に黒い。P. は淡黄色で、基部に 1 擬黒斑がある。V. は無色透明で、第 1 軟条は先端少しく糸状となる。これは成魚では見られない様である。A. は淡黄色の無斑。C. も淡黄色で、中央に淡紅赤色の不判明の 1~2 点がある。C. 基底に体側横帯と同色の巾狭き 1 横帯がある。

(137) **イサギ** *Parapristipoma trilineatum* (THUNBERG). 1946 年 9 月 14 日志下にて稚魚 1 点(全長 55 mm) を入手した。虹彩は銀色で、上方にオリーブ色と帯びる。吻はオリーブ色を帯び体側中央より上方に 3 オリーブ栗色の縦線あり、上の 2 条は色濃く、最下条(体の殆ど中央)は淡色でありこれらの線間には擬白色の 2 縦線が通る。鰓蓋下方と体側中央は銀白色に少しく淡桃色を帯びる。D. は淡色で棘部頂縁は少しく黒く、軟条部頂縁は桃色を帯びる。P. は少し帯黄白色で先方少し桃色を帯び、V. は無色透明、A. は白色に少し桃色を帯びる。C. は淡桃色、中央基部は少しく暗色を帯びる。

1947 年 12 月 25 日志下にてイサギ稚魚(全長 50~90 mm のもの、縦線明瞭で、鱗桃色)多数の目差して乾してあるのを見た。多分手繰かシラス網に入ったものであろう。これが始めての目撃。

(138) **コロダイ** *Plectorhynchus pictus* (THUNBERG). 1946 年 11 月 20 日志下手繰網漁獲の幼魚 1 点(全長 80 mm) を入手した。虹彩は銀色で、上方が褐色。此種は稚魚・幼魚・成魚で体の斑紋が大に異なることはよく知られている。上記の幼魚では体側中央から上方に明な 2 広縦帯があり、第 2 帯は過眼帯となる。上方のものには細い 1 帯(蒼白色の小縦線)が短かく(約 14 mm の長)入り、此 2 広縦帯間と腹方との白色にも少しく蒼色を帯びる。鰓蓋下方と胸側は黄色を帯びる。腹方の白色部中に 1 灰色の縦斑を認める。D. は黒色で、第 4~8 棘の先方は gamboge yellow の先端を有し、軟条部前方の基部は $\frac{1}{2}$ 黒く、先 $\frac{3}{4}$ は白く、次の条は黒色で最後の条 1~2 は白く、尾柄上縁も白く、これに相連なり、体側の白帯もこれに連なる。C. は上方 $\frac{1}{2}$ 弱が白色で、条の先方に少量の擬黒色軸斑があるが、中央の先端にはない。中央より下方は黒色で、体側の黒帯に連なり、最下方の条は灰白色。C. 基部から尾柄最端の辺は真黒色が強い。P. は淡黄色で透明。V. は黒色で後方が少し黄色。A. も黒色で後方数条の部が白く。

(139) **ユウダチタカノハ** *Goniistius quadricornis* (GÜNTHER). 1956 年 8 月 21 日沼津市営千本水族館に本種の幼魚 3 尾を見る。体に 8 暗帯があり、幼魚の為めか C. の上下両葉の端

が黒い。又 1957 年 8 月 10 日にも同じ水族館で、幼魚 1 尾を見た。第 2・第 3 の暗帯は密接し、C. は淡色で、末端に少し黒色があった。体の地色は灰白色。

(140) マツバスズメダイ *Pomacentrus fumeus* TANAKA. 此種に関しては已に「植・動」11 (10): 801, fig. (1942) にて色彩も公表はしたが、茲には 1955 年 9 月 1 日五十嵐真一君が志下磯ヶ根で釣獲の 1 例 (第 3 回目の調べ) に就いて詳記する。全長 111 mm, 虹彩は黄金色で、3 個の暗色斑がある。D. XII, 12; A. II, 10; V. I, 4 [従来の例は D. XIII~XIV, 11~

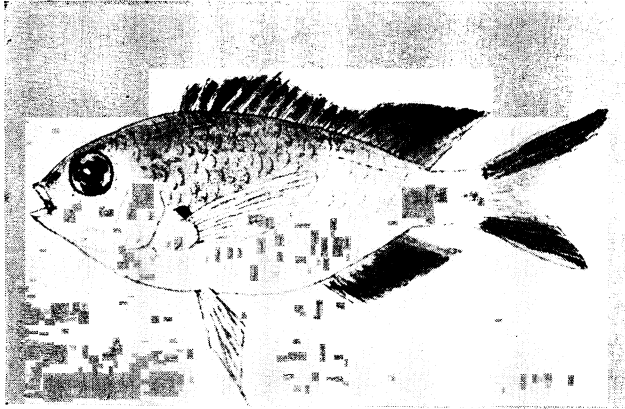


Fig. 3. マツバスズメダイ 成魚
志下磯ヶ根 全長 111 mm. (著者原図)

12], D. の 1 棘が少い。C. は 2 又して深い、下葉 (22 mm) は上葉 (27.5 mm) より明かに短い。D. は深灰色で、軟条後端は長く著しく黒い。次のクローム黄色の斑に多少橙黄色を帯びる。A. は帯灰色で先端は黒く、次に橙黄クローム黄色の斑があり、C. も灰黒色で、先端程真黒となり、又部中央は白く、それに橙黄クローム黄色の斑があり、上下両葉の最外縁は白線となる。P. は透明、僅に淡紫色を帯びる。V. は透明 [前の例で

はこの鱗に橙黄色斑があるとされ、又 D. の後端には帯黄色斑はないとされる]。体色は中央から上方は淡灰紫色で、極めて淡く、背方は多少濃色となる。中央から下方は蒼銀色である。P. の基底に黒点 1 個が明存すること、尾柄上方の基部に銀蒼色の 1 円斑あることは共に本種の特徴である。

(141) イラ *Choerodon azurio* (JORDAN & SNYDER). 1947 年 1 月 15 日志下にて漁獲の幼魚 1 点 (全長 78 mm) を入手した。虹彩は赤色で、囲眼部は暗堇色。体形・体色共親に似るが、淡紅色に富み、体側では D. 7~9 棘基底近くから P. 基底腋部に達する暗灰オリーブ色の 1 斜帯があり、側線下それに接し少々明かな巾広の帯黄白色の斜帯がある。D. の膜は淡色で灰紅色を帯び、棘部上方は膜が黄色、軟条部も同様で、その前部と棘の終り 1~2 とにかけて擬黒色斑があり、多少 1 大斑を構成する [親魚には見られない]。C. は淡灰黄色 [親では暗褐色]、P. は極めて淡き黄色、V. は基底は白く、先方は淡黄色、中央に紅色の 1 斑がある。A. は淡色で先端近く 1 縦黄帯をなし、軟条部中央に 1 灰黒色斑がある [親にはない]。A. III, 10 で或書物に III, 7 とあるは誤りか。

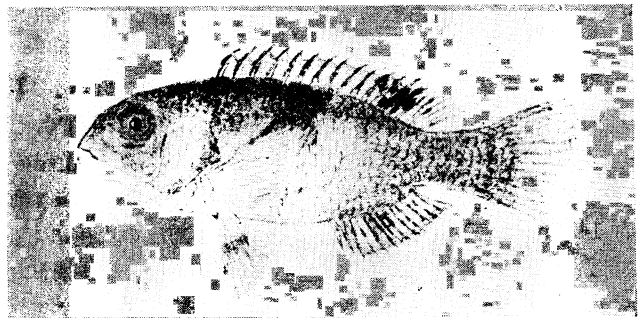


Fig. 4. イラ 幼魚
志下 全長 78 mm.
(著者原図)

(142) ニシキベラ *Thalassoma cupido* (T. & S.). これは最も普通の磯魚であるが、茲には1946年5月31日我入道海岸採集の獲物中の本種の極く稚魚(全長21mm)について記す。

虹彩は銀色で、内輪は鮮赤色。

D. に4小黒点があり、尾柄中央後端にも1黒点がある。体側は背方共に3縦帯があり、地色は淡蒼白色である。中央の帯は巾広くそして過眼し、背方のものと共に深ブドウ赤色を呈し、腹方にある1帯は帯紫淡紅色であるが色は淡い。D. は淡色で上縁赤色、A. は蒼色で、下縁淡紅色である。P. とC. も淡紅色、V. は白色である。以上の色彩は成魚と比し大に異っているのが注目される。

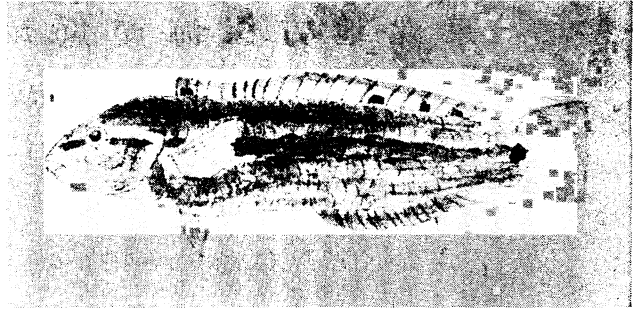


Fig. 5. ニシキベラ 稚魚
我入道タイドプール 全長21mm. (拡大)
(著者略写)

(143) ヤナギベラ(ホンベラ・セトベラ) *Halichoeres tenuispinnis* (GÜNTHER). 松原博士は *H. bleekeri* (S. & D.) と *tremebundus* (J. & S.) とをシノニムとせらる。1950年10月22日山内豊功君が伊豆網代で釣獲の1点(全長115mm)を贈られた。これは新鮮のもので、頭は暗赤色、背面は暗黄オリーブ色、腹方に淡蒼色、体側は淡黄オリーブ色に桃色を帯び、不判明な3条の赤色長線が通り、尾柄部で消える。頭部にある過眼帯と眼下帯(後方上方に曲る)とは暗赤色で、その間にオリーブ蒼色の1縦帯があつて後方に曲る。その左に暗赤色の長方形斑があり、その内に蒼色の1点を有し、このマークの上方にも過眼帯とその間に蒼色の長方形斑があり、眼上にも蒼色縦帯がある。上記のために鰓蓋上にこの2色による虫喰様斑を作り出す。D. は上縁を含み赤色で膜に淡蒼色の2~3縦列の擬円点を有する。P. は淡紅灰色で、基底上縁に1小蒼黒色の明かな二等辺三角形斑があり、その下方は帯淡紅色である。P. の鰭迄の間は淡黄色。V. は帯紅淡蒼白色、A. は赤色で中央に淡蒼色の1縦帯が走る。C. は淡紅赤色に不判明な3淡蒼色のクロス線がある。上下唇と開眼狭輪とは暗赤色で、過眼帯と同色。虹彩は帯蒼色。

以上の結果から見ると頭部に眼上、眼下に各1条の暗色縦帯[新鮮では淡蒼色]のあることとD. に1黒斑なきことによりヤナギベラの雌成魚かと思う。しかしD. に淡蒼色の2~3縦点列あることはセトベラの特徴にも一致する。セトベラ (*tremebundus*) は確かに幼魚であると考えられる。

尚、顔や其他の部の赤色は液漬後は消え失せ、頭のオリーブ蒼色の2縦帯は暗帯と変って残るらしい。

Résumé

The part nine of this series contains descriptions of life colors of the species Nos. 132~143, with some interesting notes on *Tosana niwae*, *Pomacentrus fumeus*, *Halichoeres tenuispinnis*, etc. from Suruga and Sagami Bays.